

## 2022 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 16日
- 事業名 : フードバンク活動のさらなる発展のために
- 資金分配団体 : 公益財団法人パブリックリソース財団
- 実行団体 : 公益社団法人フードバンクかながわ

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
中核的フードバンクとしての機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事務局有給職員数</li> <li>●新規取扱「冷凍食品」の中継拠点数</li> <li>●運搬用車両台数</li> </ul>	7名 3カ所  3台（新規購入）	2024年3月	6名 1カ所  2台	2
地域ネットワークが形成され、構成団体との連携・協議が行われている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食支援団体構成数</li> <li>●情報共有・連携強化のための会合実施回数</li> </ul>	250団体 年3回	2024年3月	298団体 年2回（2021年度）	1
食品・物品を届けられる地域が拡大し、支援できる世帯が増え、供給量が増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食品配布量</li> <li>●冷凍食品・農産物配布量</li> <li>●冷凍ストッカー配置数</li> </ul>	250ト 30ト 40台	2024年3月	270ト（2021年度） 4.6ト 14台	2
地域ネットワークに自治体の福祉課や社会福祉協議会等が含まれ、連携している	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治体や社会福祉協議会の構成数（合意書締結数）</li> </ul>	60団体	2024年3月	60団体	1
中核的フードバンクの食品・物品・資金の調達量が増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食品・物品を寄付した企業等の数</li> <li>●資金を寄付（賛助会員）した企業等の数</li> <li>●調達量</li> </ul>	200社  220団体  250ト	2024年3月	237団体（社）  210団体  287ト（2021年度）	1

個人の食品寄付の増加による食品ロス削減量の増加、フードバンクへ賛同する人の増加、行政のフードドライブ	●フードドライブ拠点数・調達量 ●個人寄付人数（FBへ直送数）	200カ所・50トン 300人	2024年3月	299カ所・76.4トン (2021年度) 353名	1
--	------------------------------------	--------------------	---------	----------------------------------	---

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
感染防止・消毒用備品等の配備、体験研修・ボランティアの人数制限、会議・学習会等のオンライン開催など

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）2021年7月21日以降掲載のもの

タウンニュース：2021.8.13 秦野版、8.26 金沢区・磯子区版、8.27 鎌倉版、9.10 秦野版、9.30 泉区版、9.30 鶴見区版、10.7 鶴見区版・保土ヶ谷区版、10.7 金沢区・磯子区版、10.14 平塚版、10.21 金沢区・磯子区版、10.23 小田原・箱根・湯河原・真鶴版、10.28 緑区版、11.5 逗子・葉山版、11.11 鶴見区版、11.19 秦野版、11.25 さがみはら南区版、12.3 逗子・葉山版

2022年1.14 厚木・愛川・清川版、2.11 秦野版、2.17 旭区版、2.18 逗子・葉山版、2.24 瀬谷区版、3.10 さがみはら南区版、3.10 鶴見区版、3.17 南区版、3.24 さがみはら中央区版、4.28 戸塚区版、4.29 逗子・葉山版、6.24 伊勢原版・秦野版・平塚版、7.8 藤沢版、7.14 都筑区版。

[フードバンクかながわの検索結果 | タウンニュース | 神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙 \(townnews.co.jp\)](https://townnews.co.jp)

2.広報制作物等

「食品のひみつ」（小学5年以上を対象副読本）及び教員用指導要領。フードドライブ実施チラシ、フードバンクのしくみポスター

3.報告書等

2021年度フードバンクに関わる政策研究会報告（2022年6月発行、配布先：神奈川県議会議員（全会派）、正会員団体）

[https://www.fb-kanagawa.com/pdf/seisakukenkyu\\_report2021.pdf](https://www.fb-kanagawa.com/pdf/seisakukenkyu_report2021.pdf)

## 2022 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	アンケート集計	山内ひろ子	公財かながわ生き活き市民基金
外部	評価	菅原敏夫	NPO 法人まちづくり情報センター
内部	評価	藤田 誠	事務局長
内部	評価	荻原妙子	地域連携担当

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
食支援団体	満足度 集計 p 13	3.5 以上(5 段階評価)	2024 年 3 月	食品調達 4.01 品目 3.99 量 4.02
子ども食堂及びフードパントリー	新規実施団体（合意書締結） 団体数	30 団体（2021 年 7 月以降）	2024 年 3 月	56 団体
地域のフードバンク、こども食堂、自治体	冷凍ストッカー配置団体数 冷凍食品配布中継拠点	40 団体 7 カ所	2024 年 3 月	14 台 1 カ所（本部金沢倉庫事務所）
地域のフードバンク、こども食堂、自治体	冷凍食品提供先	38 団体 7352 個 4.9 トン（2022 年 4 月～9 月 13 日）		冷凍庫の無い団体に冷凍庫無償貸付を行い、冷凍食品（鶏唐揚げ、チャーシュー、5 種野菜、グリル野菜、ケーキ、ライチ）の提供は、大変好評。ひとり親世帯からは特に時間短縮、不足し高騰する野菜の補給などに喜びの声を聞いてい

				る。野菜は日頃提供できないアイテムで、しかも温めればそのまま付け合わせにも使える。ケーキは業務スーパーのもので、そのまま食すほかにスイーツとして作り直すなど用途が広い。
地域のフードバンク、こども食堂	提供品のアイテムを増やす	設定なし	設定なし	パン（山崎製パン(株)） 1日100個 週5日10団体
自治体や 社会福祉協議会	食品提供の合意書締結数	60団体	2024年3月	60団体
自治体や 社会福祉協議会	防災備蓄品等寄贈自治体等合意書締結数	25団体	2024年3月	24団体（2022年7月）
寄贈企業	食品・物品を寄付した企業等の数	200団体		236団体（2022年7月）
賛助会員	資金を寄付（賛助会員）した 団体・個人数 年間賛助会費額 寄付額	220団体、 300名 800万円 1200万円		210団体（2022年7月） 293名 639.3万円（2021年度） 1852.6万円（2021年度）
企業・団体	企業・団体からの寄贈重量	200ト		210ト（2021年度）
個人寄贈	フードドライブ（個人寄贈）の回 収拠点数・寄贈重量	200か所 50ト		299か所（2021年度） 76.4ト
地域フードバンク	合意書を締結している地域フ ードバンク団体数	25団体		22団体



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>アウトプットの達成</p> <p>県域レベルの食支援のハブへ</p> <p>中核的フードバンク</p> <p>地域ネットワークの形成</p>	<p>数量的に計画を超過達成している。</p> <p>食支援の拠点が拡大、深化。拠点に必要な資源を効率的に分配する機能によって、ハブの地位を確保。</p> <p>フードバンク相互の補完機能を意識的に強化。相対的に取扱量等の拡大に寄与。食品ロスの解決に向けて前進。</p> <p>公的機関、企業への働きかけの累次的強化によって相互の橋渡し、相互活用の媒介的地位（インターメディアリーな）を確立しつつある。</p>	<p>使命の浸透、報道、広報等によって循環的拡大が実現している。</p> <p>自生的なネットワークに寄り添って拡大、効果が実現。</p> <p>自立的、主体的なフードバンク連携を実現しつつある。</p> <p>食品ロスの一方向の巨大な発生源である企業とのコラボレーション、物流状況への対応などで、生産部面での食品ロスへの解決のてがかりに届き始めている。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>順調に進捗している。</p> <p>冷凍食品の寄贈を安定させ、冷凍食品の中継拠点での引き渡しのトライアルに進む。</p> <p>目標値の上方修正について</p> <p>2022年度は、目標値（280 トン）を上回り、300 トン超を予想している。</p> <p>倉庫のキャパシティも限界にあるので、目標値の修正については、関係団体間の合意形成も必要なため、5 か年を迎える 22年度はむしろ内実を高めることに注力し、次の中期計画検討と合わせて内部の検討を深めていく予定。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	・ 冷凍食品取扱のインフラ整備 ・ 事業者へ冷凍食品寄贈の要請	食品流通の要に、冷凍食品、冷凍設備があることに気づき。	・ 冷凍車 3 トンの購入、冷凍庫の寄贈、提供先への冷凍庫の無慮貸し出し、冷凍食品用ビッグシッパーの準備ができています。 ・
実施をとおした活動の改善、知見の共有		食品の生産段階、流通段階でのロス削減の知見の共有から、保冷設備への設備投資を早期に実施。フードバンク取扱量の拡大に寄与。	川上の企業的生産・流通、中洲のフードバンク、川下の食品ロスの削減、その過程を活用しての、貧困、栄養、食の確保などの社会課題の解決の流れを意識的に把握、フードバンクが社会的再生産過程の改善に参加できる道を開きつつある。
組織基盤強化・環境整備		適切な設備投資、資金確保の必要性に気づき。	組織基盤の強化によって、ロジックモデルの毛細血管たる、各地域、各社会問題解決機関の環境整備、流通経路への参加をどのように助けていけるのかは依然として課題。各地域主体の基盤脆弱性をどのように解決手助けできるのかは依然として課題。

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・ 神奈川県、横浜市の協力によりフードドライブ回収拠点が 300 以上に増加した。
- ・ 横浜商工会議所小売部会様でのフードバンク活動報告によりフードバンク・フードドライブへの関心が高まりフードドライブに結びついた。
- ・ コロナウイルス感染症が終息に向かうと予測したが、逆に拡大し、食品支援（パントリー）をおこなう団体が増えた。
- ・ 賛助会員団体の JA さがみ様より冷凍コンテナ、フクシマガリレイ様より 1000ℓ の冷凍庫 2 台の寄贈があった。
- ・ 事業開始時に 3 社の冷凍食品寄贈があり、好スタートとなった。

### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・ コロナ前より山崎製パン(株)との間で進めていたパンの提供が実現した。1 日 100 個週 5 日のパンの寄贈は支援団体には大変好評。現在はフードバンクかながわ倉庫 1 カ所に限っている。



#### ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>冷凍食品への取扱拡大は、環境整備（冷凍車購入・大型冷凍庫寄贈・冷凍庫の無料貸出、冷凍担当者配置）と、寄贈拡大（生協取引先に加え、農林中金、横浜市資源循環局、HP 閲覧からの寄贈問合せによる）を、SDGs と 5 年間の活動実績が結びついた結果と評価。</p> <p>提供団体からはコロナ禍で失職した世帯・物価高騰に苦しむ世帯・多忙なひとり親世帯などから喜びの声を確認しており、冷凍食品は利用者の期待に応じている。</p> <p>より多くの安定的食品調達と、安定調達を基盤とした冷凍中継拠点の開発が課題であるが、年間 200 トンの廃棄がある大手冷凍食品製造企業との合意書締結も終了し、年度内の着手が見込まれる。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。



冷凍安定入荷・マルハニチロ(株)様からの検疫後の余剰品 毎月 500 kgを予測できる、その他大手のメーカー寄贈にチャレンジ。  
冷凍品の中継拠点でのひきわたし・ルートはできているので実験取り組み

⑥

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

活動写真を3～4枚貼り付けてください

